



F u - Z i n



第16回

# NPO博多の風

## フォーラム 報告

# 第13号

- 第5回博多祇園山笠追山コース探訪が開催!
- 第9回はかたの町クリーン作戦実施

平成18年10月発行

# 第16回

●平成18年4月21日(日)

# NPO博多の風 フォーラム開催!

平成18年4月21日明治安田生命ホールにて第16回NPO博多の風フォーラムが開催されました。

第一部では、NPO博多の風事務局だよりとして、福田事務局長より、昨年の活動実績と今年の活動予定について発表されました。壇上では、新しく楽文コンテストの世話人になった平井さんと、新規事業である出版事業の世話人の中島さんの紹介がされました。その後第二部として、沖縄在住で舞台演出などで活躍中の平田大一さんの南方詩人一人舞台「南の島を詩う」が開催されました。

まずは挨拶かわりの一曲として笛での演奏がおこなわれ、その後講演がはじまりました。

平田さんの生まれた小浜島は周囲が16キロで人口は5000人程の小さな島だそうです。同級生は4人で平田さんは東京の大学へ進学しました。その後、大学を卒業して故郷の小浜島に戻って来た際に、家族の方から「なぜ島に帰ってくるのか?お前には期待していたのに」という問いかけがあったそうです。当時の雰囲気として、度島を離れた人がまた島に帰ってくるという事は、「都落ち」

のようイメージがあり、挫折とか失敗を感じさせるものだったようです。そんな問いに対して平田さんは「私にとつての中央、つまり都はここなんだ。自分の夢を実現させる為に上京してきたんだ」と強い気持ちで当たった所、みんな分かったようなわからないような感じで「じゃあ好きにしたらいいさあ」となったようです。島に戻った平田さんはどうやらたら小浜島に人が集まってくるか

を考えました。当時の小浜島のキヤッチコピーは「地図にない島、小浜島」というものでした。それに対して竹富島は「何も開発しない」という開発をしよう」であり、西表島は「東洋のガラパゴス」という名前で、そこには何かいそうな雰囲気がありました。実際にイリオモテヤマネコという天然記念物もいて、それを見たさにいろんな所から人が集まっていたそう



です。交流人口が増えれば定住人口も増えるという事をヒントに自分自身が天然記念物になればいいと考えた平田さんは「南方詩人」と名乗るようにしました。その頃、村の95になる長老から「とうるびき むーるびき」という詩をおくられました。「あの森もこの山も一本の木からできている」という意味で長老からは「大一、お前がその一人目になるんだよな?」と言われたそうです。自分の居場所を創る事は戦いです。物事は一人目から始まります。その一人目になるんだという思いで平田さんは活動を続けました。大学生の頃に目をかけてくださった教授の方から卒業の時に「アメリカでは一流企業に入るのには三流の学生で、一流の学生は自分で興すんだよ。君が一流かどうかは島に帰った後の君の行動で決まる。青臭い文学青年にはなるなよ。土の香りがするエセインテリになりなさい」という言葉を贈られたそうです。平田さんの考えの根本にある交流というキーワードは実家が民宿をやっていた事が大きいそうです。民宿に来るいろんな県の人達と交流をしていると、島を出ていなくてもいろんな話をする中で、心の地図を広げて



くれる事を感じていました。「子供達にとつて一番大切なものは交流であり、異なる文化同士のおつかり合いが生み出す経験は何事にも変えがたいものだ。」という考えは「環」してその後の平田さんの活動にも表れているように思えます。実家の民宿を活用しながらキビ刈り園農塾というものを始められました。民宿の代金を無料にする代わりにサトウキビを刈る労働をするというもので、最初は1反程度からのスタートでしたが、人が人を呼び、どんどん活動の輪が広がって12年目には小浜島のサトウキビの収穫量で二番目という立派な兼業農家になったそうです。8年間ほど小浜島で活動を続けてきた30歳の時に、沖縄の舞台の演出をやってみないかという話をいただきました。琉球舞踊をベースにした演劇のワークショップという形を始めていった訳ですが、教

育庁からの依頼であった「子供たちの、子供たちによる、子供たちのための舞台」を創るには様々な苦労があったようです。中学校へ行って参加者を集めて、散々遊んだ後に舞台の稽古をして、「楽しかったら？明日は友達連れておいで」というような形で仲間を増やし、最初は7名だった参加人数も気がつくくと協力者を入れると2300人になっていました。

それから観光立県ではなく、文化立県という事で「教育で地域を変える。文化で産業を興す」という考えを基に様々な舞台を作っていました。子供達の舞台です、当然その親も見に来る訳で「あれは、俺の息子だ」とい



う声も聞こえる、あつたかい雰囲気

の舞台でしたが、終わった後の達成感でみんなが涙を流す事もしばしばあったそうです。

その後、昨年来より交流を続けているという春日市の少年の船のメンバーとも一緒に舞台となりました。これは裏話ですが、平田さんと春日のメンバーと一緒に練習をしたのは昨年の夏が最後だそうで、それからは個別に練習を続けてきたそうです。開始前の30分程で、平田さんと少年の船のメンバー達が最終の構成を調整していました。それを受ける子供たちも、あくまで自分達が今までやってきたことは練習であり、今日のこの場が本番で、本番でよりよい

パフォーマンスをするためにはどうしたら良いのかを、自分達の意志で考えていました。大人から言われる前に自分達の意志として「こうしたい」というものがあり、そういうアイデアを受けた平田さんが全体の構成を考えながら振付けをおこなっていました。その振付けを受ける子供達も年上の人間が廻りの下の人間を引っ張っていき、小さな子供達も自分の役割をきちんと表現して、非常に一体感のある舞台でした。

今回のフォーラムで、平田さんは「多くの人々との活動を通じ子供たちが得る達成感の大切さ、道徳のための感動体験の大切さ」を明るく楽しく伝えられました。「本当の教育とは涙を流すような体験をどれだけできるかだ」「人を作るために文化・芸術がある。」「舞台をやる人をつくるのではなく、稽古をしながら人を創っている」「地域に根ざした活動をして、視点は郷土、視野は世界というかたちでやっていきたい」等、平田さんの言葉は会場にいた多くの大人にも強い印象を与えたと思います。

(中山 肇)



## 第17回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内

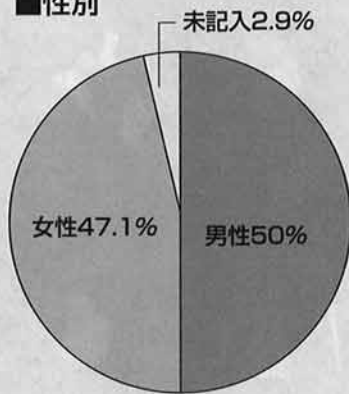
■開催日時 平成18年10月29日(日) 開場12:30/開演13:00 ■開催場所 明治安田生命ホール(明治安田生命ビル8階)

### 開催内容

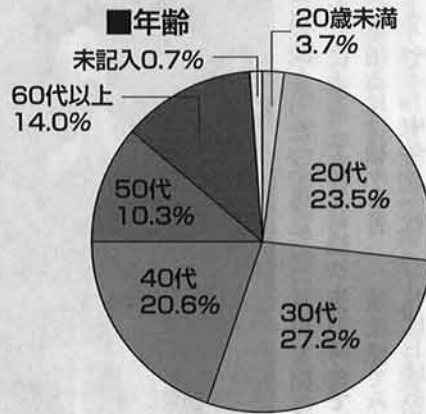
- 第一部 第六回「祭童子集まれ」楽文コンテスト 表彰式
- 第二部 講演講師:逸見明正氏(KBCアナウンサー)  
演題:博多よもやま噺

# 第16回 NPO博多の風フォーラム アンケートより (回答136名)

## ■性別



## ■年齢



打てば響く大人になりたいと心から思いました。  
 ◎講演が非常に面白かったです。子供たちの教育におけるグループで一つのことを達成する大切さを改めて実感しました。  
 ◎今回初めてフォーラムに参加させていただきましたが、とてもよかったです。文化について自分の住んでいる博多をもっと知ろうと思いました。

## ●今後のフォーラムにおいて希望されるテーマ

- ◎地震、災害に対する心構えなど消防に関する話など
- ◎福岡の有名なアスリートの話が聞いてみたいです
- ◎地域の関わり方、子供と大人の関わり方など
- ◎食育、食べ物に関する事

## ●NPO博多の風の活動に対して、要望などございましたらお聞かせください

- ◎よく頑張っていると思います。今後も元気に活動してください
- ◎博多のまちづくり、再生、まちの人々中心の活動を
- ◎地域密着を目指しているわりには知られていない気がします。もったいない

## ●本日の感想をおきかせください

◎舞台をやった子供が涙を流す姿が印象的でした。地域の文化と子供達のかかわり方に大切なヒントをみつけたようです。  
 ◎平田さんの熱い思いが十分に伝わりました。子供はいろんな力をもっている。大人はそれの手助けをしなければならない、むしろするべきだと思います。  
 ◎今までのフォーラムで一番よかった、パワーをもらったし、目からウロコもあったし、学ぶものがたくさんありました。元氣も持てました。  
 ◎地域に根ざした地道な活動や異なった地域の人々との交流が素晴らしいと思った。平田

さんの地域おこしや文化による教育変革に対するの熱意の強さに感動しました。  
 ◎受身ではなく、自らやる事の大切さ、子供たちの力強さを感じました。  
 ◎とても楽しかったです。自分の故郷を大切に、自分もがんばっていこうと思いました。  
 ◎とても感動しました。地域を愛する心は自分を好きになる事、今の時代薄れてしまっていて本当に大事だと感じました。  
 ◎とてもよかったです。子供達に接するとき心がけることを学ばせていただきました。まず、子供達の全てを受け入れる大人、そして



追山の時に清道旗の立つ場所がここです。



世話人の染矢さんにつづいて理事長から挨拶を頂きました。



二番目の清道がある東長寺です。



各グループに別れて冷泉公園を出発します。



三番目の清道がある承天寺です。清道を回る山笠を間近で見られるポイントとして人気があります。



山留めの前は、追山のスタート直前の緊張する瞬間です。

## 第五回

## 博多祇園山笠

## 追山コース探訪が開催!

●平成18年6月4日

博多の町に山笠の季節を告げる長法被に身を包んだお

いしやん達と一緒に追山コースを歩く追山コース探訪が開催されました。今年も申込みも多数で、総勢219名の参加者様を合計13のグループに別れてスタートしました。



皆様お疲れ様でした。今日はいかがでしたか？

13

### 世話人からの一言

参加者の皆さん、どうもお疲れさまでした。今年は曇り空で暑くもなく最高の探訪日和だったと思います。新しい企画で記念スタンプも用意させていただ更に我々NPO博多の風の活動に、多数の方の賛同をいただき、誠にありがとうございました。来年また更に新しい企画を考案中ですので、お楽しみに！  
来年の募集時期はゴールデンウィーク明けを予定しています。たくさんのご応募お待ちしております！

世話人: 染矢 純一



お茶と冷やせんざいをどうぞ。

14



記念のスタンプを用意しました。

15



大庭宗一理事長の著書「なんとかするさ」です。一緒に追山コースを歩いた記念にサインを入れています。

16



右に左に折れ曲がり、15日の廻り止めを目指します。

11



東町筋には様々なお寺があります。ここは聖福寺です。

7



追山の決勝点「廻り止め」です。

12



昭和通りを超えたら浜口公園があります。今日はここで休憩です。冷たいお茶をどうぞ。

8



大博通りから90度曲がると、もっとも道幅の狭い通称「ごんどう度通り」です。

9



この「西町筋」を真直ぐ抜けた所が12日の「追い山笠ならし」の廻り止めです。

10

## 参加者より

●テレビで見ていたけど、こんなところを通るのかと思いました。コースを歩いてみたのはもちろん初めて。担いだ人の話も聞いて、自分も担いだような気持ちになりました。面白かったです。

●とてもいろんな事が分かりました。意外と知らない事が多くて驚きました。今度は仲間を連れて参加したい。県外から来た人などを案内する時に大変参考になりました。こういう博多の良い所をどんどんアピールして欲しい

●子供の頃はこのあたりに住んでいたんですが、転勤してずっと離れていました。時々山笠の時に帰ってきてはいました。定年を期にこちらに戻ってきましたがずっと県外にいたので山笠のことを説明できなかった。こういう機会、山笠の事をもっと知りたい。

●テレビの中継最初と最後しか見たことがなかったので、面白かった、テレビもいかにもおまつりといった所しか写さないので出ている人の生の声が聞いて良かった。今年の山笠が今から楽しみです。テレビではわからない、博多の街を再発見しました。自分が見るものが増えました。

●距離が長くておどろきました。普通に歩いててもきついのに、山笠を背きながらこの距離を走るなんて、博多の男は偉いと思いました。

●普段はなかなか歩かないですが、山笠のことを知りたくて参加しました。他県の人に山笠の事を説明することもあるけど、なかなかできなかった。今日は大変参考になりました。もっと博多の事が知りたいと思いました。

●新聞をみて市外から参加しました。普通30分ぐらいで走っている距離を実際にあるいてみると、長かったです。実際に歩いてみて、こんなに狭いところを走っているのに驚きました。頑張ってくださいね。

●説明が分かりやすかったです。影の努力をしている人達のことを友人にも話をしたいです。今年の西日本新聞の石橋さんの連載をずっと見ていたので楽しみでした。今日参加して、今までと違ったところが見えるようになりました。説明もよかったし、あるいたのはよかった。楽しみが増えました。



### 会員紹介

平井彰さん (50歳)

NPO博多の風 楽文コンテスト世話人

■職業: 団体職員 (九州経済連合会)

■土居流 片土居町

私と山笠との出会いは、今から20年以上前、当時の勤務地である北海道から、転職で生まれ故郷の福岡に戻ってきた時に遡ります。生まれも育ちも福岡市内の中央区荒戸というところなのですが、それまで山笠に出たことも無かったですし、自分には縁遠いものだと思っていました。ところが、福岡に戻って仕事をするのであれば、博多の伝統にふれて博多のよさを感じるのが、ひいては仕事にも役立つだろうという大学時代の友人が、折角なら山笠に出ては、ということで土居流の片土居町を紹介してくれました。土居流も9カ町あり、

その中でも片土居町と接点をもつようになった訳ですが、よくよく自分のことを考えてみると、父親が今の博多座の場所にあった、当時の西日本相互銀行の本店で働いていました。かつて片土居町の詰所は銀行の駐車場を借りてつくっていましたが、父親からは詰所のことや銀行の横の通りを山笠が通ることなどを何となく聞いていました。大学時代の友人を通じて関わるようになった山笠ではありますが、何かしら亡くなった父親の後押しがあったような不思議な「縁」を感じずにはいられません。父が育った家があった伊崎地区は、土居流

の加勢町として叔父なども出ていたようですし、かつては当仁小学校横の通りにも唐人町の飾り山笠が立っていました。考えてみると、そういうもの全てに「縁」のようなものを感じます。

片土居町の中には櫛挽会(くしびきかい)という組織があります。かつて櫛をつくる職人が多く住んでいたことに由来しますが、今では実際に町内に住んでいる方は4世帯しかなく、町内に住んでいない人たちと町内との連携を深めることを目的として運営しています。私が丁度40代になった頃、「山笠に出て昇げるのはあと何年かな」と思っていました。そんな時に櫛挽会の責任者の引き継ぎのお話をいただいたき、そのような形でもう一つ踏み込むことよって山笠との新しい関わり方もできるかなと思つて会の運営をお引き受けしました。

年長者から幼児までが関わつて、このような形で地域の伝統を守っているのは、世界中でも博多の山笠くらいじゃないかと思えます。さらに参加しているだけではなくて、老若男女いろんな人々がそれぞれのポジションをもつて運営している祭りであることを踏まえると、地域社会そのものの運営が凝縮されているように感じます。仕事柄海外に行つて向こうの人々ともよく話をしますが、隣の韓国や中国にもこのような祭りはないようです。

恥ずかしながら私が山笠に出始めた頃は、「週間の祭りの中で、何日出たか?」「今日は何回棒についたか?」「悔いなく今年の山笠

を終えることができたか?」などということを考えてやっていました。が、ここ数年は「町内や流れ、山笠とどう関わられたのか?」というような観点で考えることが増えてきました。私と同じような世代の人は町内にも多く、それなりのやり方でそれなりにできるとは思いますが、もっと関わりを持ちたいと思えばどこまでも奥深い世界があるように思います。もちろん関わり方は人それぞれあると思います。

年長者として、若い人にもいろいろと伝えていかなければならないこともあります。せつかく出てきているのだから、遠慮せずもつともつと積極的に関わっていただきたいと思つています。山笠のよいところは、我々のような立場の者に対しても、来るものは拒まず、ということでも積極的に受け入れてもらえ、いろいろな役割を通じていろいろなことを教えてもらえるところです。

また、私は仕事上、九州の経済界をはじめいろいろな方々と関わることが多いので、「福岡をはじめ九州のいろいろな方に、もつと本当の山笠を認知してもらいたい。そのため橋渡しができるようになれば」ということで、博多の風の活動にも参加させていただくようになりまし。今年から楽文コンテストの世話人をさせていただいていますが、いろいろな所に顔を出しながら、協力を呼びかけています。私ももともと外様ではありませんが、町内の発展や山笠の発展を考えられるうで、気づいたところから自分のできることを始めていきたいと思つています。山笠は関わった人全て

に何かを感じさせる魅力をもっていますし、そんな想いを一人でも多くの人たちに感じてもらえれば嬉しいのです。

ところで、山笠に携わっている人の中で、同じ想いを持つている人は常時何人もいるわけではないと思つています。山笠を動かすには何十人何百人という組織を動かしていかなくてはなりません。一人ひとり心の山笠にはあるし、それをまとめていくことは大変なことではあります。利害関係がある訳ではありません。何百人という参加者の中で、「自分も何かできることはないか?」「何かしら役に立てることはないか?」と思つてくれる人が一人でも増えてくれると嬉しく思つています。そして私自身でいえば、これからも町内はもちろん、流れや山笠に関わつてこられた諸先輩方が守つてきた伝統を大切にしていきたいと思つています。その場合、

伝統を守ることはもちろん大切なことですが、実際に博多に住んでいる人は本音で言にくいこともあるかもしれない。逆に外野の自分だと言えることもあるのではなにかという観点で考えられることもあります。実際に山笠に携わつておられる方は、皆それぞれ表に現れないところで努力されています。ですから、山笠関係者の方々も、一般の方々に知らせられる部分はどうぞん知つてもらい、回りにサポートしてもらつとと伝統を守る部分をもっとマッチさせてほしいと思つています。そして、博多が誇る山笠が、二層よい方向に発展してほしいと思つています。(中山 肇)

## 第9回はかたの町 クリーン作戦実施

5月21日(日)8時30分から心地よい晴れ空の下、NPO博多の風理事、幹事、有志ら約80名にて第9回博多のまちクリーン作戦を実施しました。

各団体、ボランティア等の博多のまちにおける清掃活動が活発に行われるようになったこともあり、活動開始時期に比べ落ちているごみは少なくなつたように思えます。

「汚い街では犯罪が多くなる傾向にあり、常に綺麗にする気持ちで防犯につながる」という理事長の言葉を常に想い、今後も地道に清掃活動を続けていきます。

(山口寛弘)



### 第10回

#### はかたの町クリーン作戦

- 平成18年11月19日(日)8:30集合/11:30解散予定
- 集合場所:冷泉公園南側



## 第6回 祭り童子集まれ! 楽文コンテスト 優秀作品

10月29日 フォーラムにて発表

今年で6回目となる楽文コンテストですが、福岡市内の小中学校を中心に1112通のご応募をいただきました。「博多祇園山笠振興会賞」「NTTドコモ九州賞」「日本アイビーエム賞」「毎日新聞社賞」「NPO博多の風賞」の各賞の優秀作品の選定をさせていただいております。今回のフォーラムでは会場で受賞者の発表と優秀作品の紹介をさせていただきますので、多数の皆様のご来場をお待ちしております。



### NPO博多の風 賛助会員募集のお知らせ

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お問い合わせの方をご紹介ください。

- お問合せは「NPO博多の風」事務局(担当・福田)

TEL: 090-1349-5982

FAX: 092-263-7188

<http://hakatanokaze.jp>

E-Mail [npokaze@juno.ocn.ne.jp](mailto:npokaze@juno.ocn.ne.jp)

### 出版事業からのお知らせ

出版事業では、大庭宗一理事長の新しい著作を制作しています。「なんとかなるさ」「なんとかするさ」「カツ丼」につづく、エッセイとなります。日常の何気ないことから世の中の事まで、さまざまな事柄を理事長独自の観点で切り抜きます。フォーラムの時にはもっと詳しく説明できる事になりそうですので御期待ください。

### 編集後記

「子供が親を殺す」「親が子供を殺す」「カツとなって友人を殺す」など二昔前では考えられないような事件があちこちで多発しています。事件の背後にはいろんな人間関係があるとはいえず、事の発端はボタンの掛け違いの積み重ねではないかと思えます。

人と人との結びつきが希薄になりつつある中でまず何が必要かといえ、大切なのはちよつとした思いやりではないでしょうか。夫婦の思いやり、家族の思いやり、そして地域の思いやりという形で少しずつ思いやりの輪が広がっていく良いと思います。そのためにも何ができるのかをそれぞれが考えて自分自身で二歩を踏み出す事が大切です。例えば朝の挨拶も夫婦が当たり前前にできていけば、子供も当たり前前に挨拶をすることにつながります。家の中で当たり前にできていけば、それが地域に広がっていくことにもなると思います。そうやって地域の繋がりがというものができていくようにもなります。どんなに小さな一歩も、いざれ大きな流れとなり、大きな事を成すという事を平田さんの講演にあつたように感じました。

(中山 肇)

## NPO博多の風のあゆみ

平成	10年9月	任意団体「博多の風」設立 代表:大庭宗一
	同年10月	第1回博多の風フォーラム開催 講師:松本龍氏(衆議院議員)
平成	11年4月	第2回博多の風フォーラム開催 講師:倉田 眞氏(毎日新聞編集局長)
	同年10月	第3回博多の風フォーラム開催 講師:沢田幸二氏(九州朝日放送アナウンサー)
平成	12年4月	第4回博多の風フォーラム開催 講師:坂口卓司氏(RKB毎日放送アナウンサー)
	同年5月	大庭宗一と博多の風の仲間たち監修 『山笠の風』出版 同出版記念パーティ開催
	同年5月	NPO(特定非営利活動法人)認証取得 理事長:大庭宗一
	同年6月	NPO博多の風として登記
	同年10月	第5回NPO博多の風フォーラム開催 講師:緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
	同年11月	山笠交流会館建設提言書、福岡市長へ提出
平成	13年4月	第6回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤豊彦氏(福岡銀行相談役)
	同年5月	作文コンクール 「第1回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(5/1~7/31)
	同年7月	「NPO博多の風フォーラム」 福岡県21世紀記念事業認証取得
	同年10月	福岡県21世紀記念事業 第7回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤久義氏(博多祇園山笠振興会会長) 永吉和幸氏(毎日新聞社福岡総局長) 緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
		「第1回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 優秀作品表彰式
平成	14年4月	第8回NPO博多の風フォーラム開催 講師:安達一成氏(毎日新聞社記者)
	同年4月	「NPO博多の風ホームページ」開設
	同年5月	第1回 クリーン作戦開催
	同年6月	「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催
	同年6月	作文コンクール 「第2回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/2)
	同年10月	「NPO博多の風広報誌:風人」発行
	同年11月	第9回NPO博多の風フォーラム開催 講師:高橋慶彦氏(元プロ野球広島東洋カープ)
	同年11月	第2回 クリーン作戦開催
平成	15年4月	第10回NPO博多の風フォーラム開催 講師:永守良孝氏(RKB毎日放送株式会社 取締役)
	同年5月	第3回 クリーン作戦開催
	同年6月	「第2回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第3回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/2)
	同年11月	第11回NPO博多の風フォーラム開催 講師:奥田智子氏(九州朝日放送アナウンサー)
	同年11月	第4回 クリーン作戦開催
平成	16年4月	第12回NPO博多の風フォーラム開催 講師:ウー.C.リー氏(在福アメリカ領事館主席領事)
	同年5月	第5回 はかたの町クリーン作戦(雨天中止)
	同年6月	「第3回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第4回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/2)
	同年10月	第13回NPO博多の風フォーラム開催 講師:富永倫子(RKB毎日放送アナウンサー)
	同年11月	第6回はかたの町クリーン作戦開催
平成	17年4月	第14回NPO博多の風フォーラム開催 講師:松田浩氏(アビスパ福岡監督)
	同年5月	第7回はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第4回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第5回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」 実施(6/1~9/1)
	同年10月	第15回NPO博多の風フォーラム開催 講師:大庭宗一(NPO博多の風理事長)
	同年11月	第8回はかたの町クリーン作戦開催
平成	18年4月	第16回NPO博多の風フォーラム開催 講師:平田大(南方詩人)
	同年5月	第9回はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第5回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第6回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」

NPO特定非営利活動法人

# 博多の風

〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16 -302

FAX 092-263-7188

E-Mail npokaze@juno.ocn.ne.jp

URL http://hakatanokaze.jp

## NPO博多の風事業概要

- 博多の町の伝統文化を次世代に引き継ぐ啓発事業
- 「博多の風フォーラム」の定期開催
- 博多の町の地域振興活動  
「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」事業
- 博多の町の地域清掃活動「クリーン作戦」事業
- 「祭り童子集れ!楽文コンテスト」事業
- 山笠山台の技術継承活動事業
- 博多祇園山笠振興に関する活性化事業のお手伝い
- 青少年スポーツ振興に関する支援・協力事業

題字:新井光守

